

感染症を防ごう!



集団生活や子どもの多く集まる場では、施設内で感染症を広げない注意が必要です。持病を持っているお子さんや、免疫の十分でない年齢の弟妹がいる場合もありますので、正しい知識で対応しましょう。

主におなかの症状が出る感染症

ノロウイルス

強い嘔吐・下痢をおこします。2～3日で元気になりますが感染力が強く、家庭や施設内で集団で発病することがあります。消毒方法など、正しい対処が必要です。

乳幼児嘔吐下痢症

(ロタウイルス、腸管アデノウイルスなど)

ロタウイルスは強い嘔吐・下痢をおこし、入院することもあります。

腸管出血性大腸菌(O157等)、サルモネラ、カンピロバクター

加熱不十分な食品から感染することが多いのですが、動物との接触でうつることもあります。

▶ 感染の経路は

便や嘔吐物に大量の菌やウイルスが排泄されます。便や嘔吐物で直接汚れた物や始末した人の手についた菌やウイルスから他の人にうつります。

▶ 感染予防のチェックポイント

- 下痢・嘔吐のある子が普段より多くはないですか?同じクラスに偏っていませんか?
- 病名が違ってても症状の同じ子が増えていたら、施設内で感染が広がっている可能性があります。
- 行事の後など同時期に発生していませんか?
- 同時期に多数の発症があったら、食中毒かもしれません。
- 汚物処理や消毒、手洗いは適切にできていますか?
- 職員が感染したり広げたりしないよう、普段から確認しておきましょう。

主に熱や咳の症状が出る感染症

熱の出る感染症

インフルエンザ、ヘルパンギーナ(コクサッキーウイルス)、プール熱(アデノウイルス)など

インフルエンザは冬に、ヘルパンギーナやプール熱は夏に流行します。いずれも感染力が強く、何度でもかかるため、子どもの集団で流行することが多くみられます。

▶ 感染の経路は

鼻水や咳やくしゃみのしぶきに、ウイルスが多量に含まれます。しぶきを直接吸い込む他、鼻水などから手についたウイルスで広がることもあります。

▶ 感染予防のチェックポイント

- 咳や熱のある子は増えていませんか?
- インフルエンザなどは潜伏期間が短いため、早めの対処が必要です。
- 職員の咳エチケット、手洗いはできていますか?
- 咳やのどの痛みのある時には、マスクの着用を徹底しましょう。
- 臨時休業や行事の開催方法など、流行期の対応は考えていますか?
- 乳児や妊婦がかかると重症になりやすい感染症もありますので、流行期の行事の対応は事前に考えておきましょう。

咳の出る病気

RSウイルス、マイコプラズマ肺炎、百日咳など

RSウイルスは冬に流行し、体力のないお子さんの場合重症になることもあります。マイコプラズマ肺炎は発熱から始まり、しつこい咳が残ることがあります。

結核のはなし

結核は杉並区だけでも毎年150人程度があらたに治療を始めている、身近な病気です。大人が発病して子どもにうつすことがあります。職員は必ず年に1回は健康診断を受け、長引く咳があったらX線検査を受けましょう。

こんなことも
大事!

☆ 感染症の予防のために、体調の悪い時は施設の利用や行事参加を控えることも大切です。体調が悪い時は自宅でゆっくり休みましょう。
☆ 予防接種で防げる病気も多くあります。かかりつけの医師とも相談して、適切な時期に接種しましょう。

感染症予防チェックリスト

*チェックリストを参考に、それぞれの施設でマニュアルなどを作っておきましょう

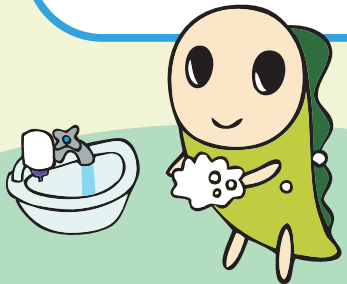


① ふだんの対策

- 子どもの接種している予防接種を把握している
- 体調不良者や欠席者の人数や理由を確認し、施設全体で子どもの健康状態を把握している
- 職員の健康診断を定期的実施し、未受診者には受診を促している
- 施設に出入りするパート職員やボランティア、実習生などの健康状態を確認している
- 職員・子ども・保護者等に咳症状がある場合、マスクの着用を促している
- 手洗いは石鹸と流水で15秒以上洗っている
- 手洗い場やトイレには、石鹸とペーパータオル又は個人用タオルが用意されている
- 階段の手すり・水道の蛇口・ドアのノブ・遊具など、職員や子どもがよく触る場所を、定期的に清掃(消毒)している
- 感染症予防用の物品や発生時の対応物品が用意されている
- 職員向けに感染予防のマニュアルを作成したり、研修をおこなっている
- 食品を扱う行事をする際には、事前に保健所に相談している

② 流行時の対策

- 嘔吐物や便の正しい処理方法を全職員で確認し、掲示するなどしている
- 嘔吐物を処理する際は、使い捨て手袋・エプロン・マスクなどを使用している
- 嘔吐物や便で汚れたものや場所は、次亜塩素酸ナトリウム0.1%液で消毒している
- 使い捨ての物品や消毒薬はセットして各部屋に置くなど、すぐ使用できるようにしている
- 汚物処理をしたあとは、石鹸で手を二度洗いしている
- 胃腸炎の集団発生が起こった時は、施設内を広範囲(遊具・テーブル・手すり・ドアノブ・床等)に、次亜塩素酸ナトリウム0.02%で一度は拭き取りをしている
- 症状のある職員は出勤を自粛したり、感染予防に配慮した勤務体制にしている
- 感染症の発生を保護者に通知や張り紙で周知し、家庭内での二次感染予防や、体調不良時の施設利用の自粛を説明している
- 感染症流行時の臨時休業や、行事の延期・自粛の基準を定めている
- 感染症流行時の対応責任者を決め、日々の情報の集約や関係部署への報告の手順を決めている



☆感染症の流行状況などはインターネットで検索できます。

都内の流行状況は [東京都感染症情報センター](#) 感染症週報、海外の情報は [厚生労働省検疫所](#) を検索!